

「福島子ども・こらっせ神奈川」活動報告

2024年1月11日

福島子ども・こらっせ神奈川

事務局長：遠野はるひ



報告の内容

1 「こらっせ」とは

ミッション・現在の活動・コロナ禍の中で

2 2022年度の報告

●福島応援・スタディツアー

2022年8・9月 楢葉コース 福島市コース

2023年3月 浜通りコース

●オンライン講演会

2022年4月 鴨下一家：原発事故から11年、自主避難家族の思うこと

2023年1月 江藤大裕：福島からの報告：子どもたちをつながりて包み込むまちへ

3 2023年度の活動

神奈川リフレッシュプログラム・山北プロジェクト・311子ども甲状腺がん裁判・
省庁交渉・講演会

「こらっせ」とは 私たちのミッション



2011年の東日本大震災、福島第一原発事故を重く受け止め、子ども達の健康と命を守ろうと2012年4月に活動をスタート。

■私たちのミッション

原発事故直後は「子どもたちの未来のために」を掲げ、被ばくを軽減する方法である「移動教室」のモデルを作るプログラムを実施したが、時の経過とともにフクシマが風化していく現実を実感し、「フクシマを忘れない」というミッションを新たに加え、若者を子ども施設のボランティアやスタディツアーで福島に送る双方向交流のプログラムを加えた。

「こらっせ」とは 現在の活動

○リフレッシュプログラム

夏休みに福島から子どもたちをグループで神奈川などに招き、学び・遊んでもらう

○福島応援・スタディツアー

「こらっせユース」が福島へ赴き、子ども施設などで、ボランティアをし、同時に原発事故被災地へのツアーに参加

○山北プロジェクト

神奈川の子どもたちを山北に招き、日帰りで 森林や水に関して学び・遊んでもらう

○その他の活動

講演会の開催、311子ども甲状腺がん裁判の支援、省庁交渉などを通じて子どもの健康・人権を考える

福島子ども・こらっせ神奈川
2023年度の「こらっせ」の活動に
サポートをお願いします!

私たちのミッション

私たちは2011年の東日本大震災、福島第一原発事故を重く受け止め、「子どもたちの未来のために健康と命を守りたい」と2012年から活動をスタートしました。しかしながら時の経過とともに「フクシマ」が風化していく現実を見て「フクシマを忘れない」と強く思うようになりました。

2023年度のプログラム予定

リフレッシュプログラム

夏休みに福島の子どもたちを山北・横浜に招き、こらっせユースと一緒に遊んでもらいます。



福島応援・スタディツアー

春休みに「こらっせユース」が福島に行き、子ども施設などでボランティアをすると同時に被災地へ赴き原発事故のことを学びます。



山北プロジェクト

神奈川の子どもたちに自然豊かな山北を訪れてもらい、森林や水に関して学び、遊んでもらいます。



その他の活動

講演会の開催、311子ども甲状腺がん裁判の支援、省庁交渉などを通じて子どもの健康、人権を考えます。



あなたも賛同人になってください!

賛同金 個人一口3,000円 団体一口10,000円
ご賛同いただける方は、届込用紙に住所・電話番号・メールアドレスの記載をお願いいたします。活動報告書、ニュースレター(年4回)、各種案内をお送りします。カン/も歓迎です。

届込先 郵便振替
口座名称 福島子ども・こらっせ神奈川
口座番号 00270-7-101155

問い合わせ:福島子ども・こらっせ神奈川
TEL:045-353-9008 FAX:045-353-9998
E-mail: info@korasse-kanagawa.org
HP: /http://korasse-kanagawa.org/

「こらっせ」とは コロナ禍のなかで



○ 2020・21年はコロナ感染拡大の狭間に新たな山北プロジェクトー神奈川の居場所に集う子どもたちや若者に山北で森林や水の環境問題を学んでもらうーを準備。若者には福島を訪問してもらい、原発は気候変動の対策でないことを学んでもらう。

○PAL応援金をいただき、2022年3月から福島でスタディツアー・日帰りリフレッシュプログラムを再開したが、コロナ感染の防止に苦勞。屋外での実施、消毒、抗原検査を徹底。

○講演会もオンラインで開催

2022年度の報告

福島応援・スタディツアー

8月17-18日 楡葉町

楡葉ではユース4人が参加。交流していた楡葉児童館（学童保育）がコロナ禍のため応援の受け入れを再開していないので、代わりに「楡葉町地域学校協働センター」のプログラムを応援。水遊び、流しそうめん、鬼ごっこなどの屋外でのプログラムを手伝った。



2022年度の報告

福島応援・スタディツアー 8月17-18日 楡葉町

楡葉出身の事務局スタッフ、佐藤さんの案内で復興途中の楡葉町内、隣町である富岡町の規制緩和区域やミュージアムを見学。いまだに残る爪痕にショック。最後に楡葉の語り部、高原さんのお話を聞きました。



2022年度の報告

福島応援・スタディツアー

8月17日-18日 9月2日-3日 飯館村・福島市・裏磐梯

福島市の子ども施設と母子施設とお知り合いになり、コロナ禍で子どもたちが夏休みにどこにも遊びに行けないため、日帰りリフレッシュプログラムを企画。感染リスクを避け2つの施設はそれぞれ別の日に実施し、こらっせユースも2手に分かれて応援。



2022年度の報告

福島応援・スタディツアー

8月17日－18日 9月2日－3日 飯館村・福島市・裏磐梯

リフレッシュプログラムの前日、こらっせユースは新幹線で福島駅につくと、車で飯館村・福島市の被災地を訪問。ガイドさんの指導で放射線測定をおこない、放射能の存在を実感しました。



2022年度の報告

福島応援・スタディツアー

8月17日-18日 9月2日-3日 飯館村・福島市・裏磐梯

目的地は裏磐梯の檜原湖。五色沼での自然観察、BBQ、カヌーなど、2回ともほぼ同じプログラム。キャンプ場までは湖をモーターボートで移動し、子どもたちは大はしゃぎ。初めてのカヌー体験では、とても上手にパドルを操っていました。



2022年度の報告

福島応援・スタディツアー

2023年3月28日－29日 浜通り

2023年春休みの福島コースでは、夏のツアーでは見学できなかった場所や施設を小型バスで訪れるスタディツアーを組みました。

1日目は、2022年リフレッシュプログラムに招待した子ども施設を訪ね、園長先生のお話を聞き、子どもたちと遊びました。2023年の夏に、この施設の子どもたちを神奈川リフレッシュプログラムに招待しました。



2022年度の報告

福島応援・スタディツアー

2023年3月28日 - 29日 浜通り

2日目は放射線測定をしながら国道6号線を南下。飯館村を通り、震災遺構の「浪江町立請戸小学校」を見学しました。海岸線には防潮堤が建設されており、津波の被害を受けた家屋がそのまま残されていました。



2022年度の報告

福島応援・スタディツアー

2023年3月28日-29日 浜通り

「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学。双葉町の中心部にかかげられていた「原子力明るい未来のエネルギー」の看板は、伝承館に展示されています。放射線量が車内でも高い双葉町・大熊町から富岡町の夜の森と「とみおかアーカイブミュージアム」を見学。夜の森の桜は満開でした。



2022年度の報告

オンライン講演会 2022年4月

原発事故から11年、自主避難家族の思うこと 聞いて、カルガモ一家の物語を

スピーカーは、鴨下裕也さん（お父さん）、美和さん（お母さん）、全生君（長男）。原発事故被害者の分断、汚染地域居住の危険、避難者への住宅提供の打ち切りと追い出しなどなど。一家はこの不正義を裁判で訴え続けています。全生君はローマ教皇に手紙を書き、原発事故の被害を直接訴えました。参加者は80人でした。

オンラインでキックオフ!

2年ぶりにキックオフ・ミーティングを開催します。子どもたちと密に接する「こらっせ」のプログラムはコロナ禍で中止においこまれましたが、同時にこの間「フクシマを忘れない」という結成当時のミッションを再考するチャンスになりました。カルガモ一家の物語は、私たちに「子どもたちの未来のために」何ができるかを考えさせてくれるでしょう。

2022年4月3日(日)14時~16時

原発事故から11年、
自主避難家族の思うこと
聞いて、カルガモ一家の物語を



2022年度の報告

オンライン講演会 2023年1月

福島からの報告：子どもたちをつながりて 包み込むまちへ

不登校の子供たちのための居場所・「ビーンズ
ふくしま」の歴史と、そこから生まれた子ども
食堂・「よしいだキッチン」の活動、福島市の
子ども食堂ネットワークを行政も巻き込んでど
のように組織したかというお話を聞きました。

参加者は50人でした。

福島からの報告： オンライン「こらっせ」講演会

子どもたちをつながりて
包み込むまちへ

お話し 江藤大裕さん
(ビーンズふくしま・よしいだキッチン)

コーディネーター 加藤彰彦(野本三吉)さん
(沖縄大学名誉教授)

2023年1月29日(日) 14時から16時
参加費 無料
主催 福島子ども・こらっせ神奈川



2023年度の活動

神奈川リフレッシュプログラム

2023年8月7日－9日 山北町・横浜

4年ぶりに神奈川でリフレッシュプログラムを実施しました。来てくれたのは、昨年のプログラムに参加した福島市の「子ども施設」の子どもたち。子どもたちは、初めての体験が多く興奮気味。とりわけ川遊びがお気に入りでした。このプログラムはPAL応援金をいただいているので、来年に詳しく報告します。



2023年度の活動

山北プロジェクト

11月12日 山北町

茅ヶ崎の居場所に集う子どもたちと山北町の大野山登山をしました。ゆっくりしたペースで進んだので、それぞれの秋をさがすことができましたようです。山北の女性林業家、富田さんに聞く最後の質問タイムでは、するどい質問が次々と、とびだしました。居場所では見られない子どもたちの生き生きした姿に、大人たちは感激。



2023年度の活動

311子ども甲状腺がん裁判支援

2021年1月に提訴された311子ども甲状腺がん裁判は東電の責任を追及し、360人もの若者・子どもたちが甲状腺がんに苦しんでいるという現実を明らかにしました。同時に私たちに勇気をくれました。

こらっせはこの裁判がとても重要だと考え、当初から支援しています。裁判を傍聴するとともに、2023年5月には井戸謙一弁護士団長を講師にお迎えし、オンライン講演会を開きました。

オンライン「こらっせ」講演会
2023年度へきックオフ!

2023年度の「こらっせ」へきックオフミーティングは、講師に「311子ども甲状腺がん裁判」の弁護団長・井戸謙一さんをお迎えし、訴訟の内容についてお話してもらいます。311から11年経過した昨年、原発事故による放射線被ばくが原因で甲状腺がんが発症したとして、当時福島県内に住んでいた当時7人の子の若者が東京電力に対し損害賠償を求める訴訟を起こしました。主要な争点は原発事故と原告らが発症した甲状腺がんの因果関係です。子どもの甲状腺がんは本来100万人に1〜2人しか発症しない希少がんですが、福島県では30万人の子どものうち300人以上が発症しています。被告の東京電力はUNSCEAR(国際原子力委員会)の報告書を根拠に、福島の子どもたちにはわずかな被ばくしかしていないので甲状腺がんが発症するはずはないと主張しています。

「311子ども甲状腺がん裁判」は子どもたち・若者たちの健康と人権を守る裁判です。「フクシマを忘れさせようとする大きな力」に反対する裁判です。ぜひ、理論と学識と行動に裏づけられた井戸弁護士のお話を視聴してください!



5/14 日 2023
14:00~16:00

お話し: 井戸謙一さん(「311子ども甲状腺がん裁判」弁護団長)
コーディネーター: 加藤彰彦(野村三吉)さん(沖縄大学名誉教授)

参加費: 無料

主催・連絡先: 福島子どもこらっせ神奈川
[メール] info@korasse-kanagawa.org [電話] 045-353-9008
[ホームページ] http://korasse-kanagawa.org/

申込み方法
Web会議システム (Zoom) により開催します。
参加ご希望の方は、右のQRコードが次のサイト
https://forms.gle/9v32p3v9z3543k8m8
より登録ください。入力が難しければ、事務局
メールに必要事項 (お名前、所属、メールアドレス) を記入して送っ
てください。配信用URLは、講演会前日までに送付します。ご不明
点があれば事務局メールにご連絡をお願いします。



第4回311子ども甲状腺がん裁判



2023年度の活動

省庁交渉・勉強会など

こらっせは神奈川の保養ネットワークである「いのち神奈川」のコアメンバーとして、毎年一緒に省庁交渉を実施しています。裁判を支援するためにも省庁交渉の中身を充実しようとワーキンググループをつくり、2023年12月にはOurPlanet-TVの白石草さんを講師にお迎えして勉強会を開催。

今後はネットワークを広げるとともに、

「子どもの人権」という大きな枠組みの中で、「子どもの環境・健康」を位置づけて、もっと多くの人に関心をもってもらいたいと考えています。



**ご視聴をありがとうございました。
今後ともご支援をよろしくお願いいたします。**

こらっせのHPには、各年度の報告書が掲載されています。
今回ご紹介した講演会も視聴することができます。

<https://korasse-kanagawa.org/index.html>

